

## 家族ケアへの依存から生み出された高齢者の社会的孤立を捉える

— 養護老人ホーム入所者のケースファイル分析を通して —

○ 氏名 今村 洋子(会員番号 9897)

キーワード3つ:社会的孤立、家族ケアへの依存、養護老人ホーム

## 1. 研究目的

本研究の目的は、家族ケアに依存してきた高齢者福祉政策のあり方について検討している代表的な研究について取り上げ、高齢者福祉政策の歪みとして生み出された高齢者の社会的孤立を捉えていくことである。高齢者福祉政策が過剰に家族ケアに依存してきた現状を養護老人ホーム入所者のケースファイル分析により社会的孤立が生み出されたことを確認し、今後の高齢者政策・支援のあり方について議論をする俎上に挙げていくことである。

## 2. 研究の視点および方法

家族ケアに依存してきた社会及び高齢者福祉政策のあり方について検討している代表的な落合恵美子(2017・2019)と上野千鶴子(2011)の論を整理した。その上で B 養護老人ホーム入所者のケースファイルに記載のある入所理由を分類し、男女別の割合と全体での割合を数量で確認し、社会的孤立がどのような背景で生み出されてきたのかを分析した。

## 3. 倫理的配慮

本調査研究では、事業報告書・ケースファイルを使用するにあたり、該当する社会福祉法人 A 法人に稟議書回覧により、研究倫理審査申請書兼承認書を得た。明治学院大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻調査・研究倫理委員会による「調査・研究倫理審査」の承認(承認番号:SW22-07)を得て実施した。本報告に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。

## 4. 研究結果

## ① 家族ケアに依存してきた高齢者福祉政策 ～落合、上野の論から～

落合(2019:P284)は福祉政策について、「実態としての変容が起きたにもかかわらず、制度面での対応が伴わず、(中略)いまだに『家族の戦後体制』を前提とした社会制度が日本社会には多く残っています。(中略)制度から取りこぼされる人たちを生じさせているのだ」としている。上野(2011:P110)は「『高齢者福祉』とは、(中略)『市場の失敗』と『家族の失敗』の補完物として、位置付けられていた。福祉の対象となる高齢者は家族の援助を受けられない人々に限定されていた。」と指摘している。

## ② 養護老人ホームケースファイル入所理由の分析から社会的孤立が生み出された背景を探る

養護老人ホーム入所者のケースファイルを分析し、高齢者の社会的孤立がどのような背景を持って生み出されたのかを捉えていくこととする。対象者は 2000 年以降に B 養護老人ホームに入所

し、2022年度末までに退所したご利用者で、ケースファイルが現存している124件とした。分析内容は斉藤(2018:P87)が分類した(1)人口学的要因との関連、(2)家族形成との関連、(3)社会経済的地位との関連、(4)身体的・精神的健康との関連の整理を踏まえ、①性別、②入所時の年齢別、生まれ年、③学歴、④婚姻歴と子どもの有無、⑤疾病の有無 ⑥入所の理由、とした。この中から入所理由を取り上げる。入所理由を分類したところ、家族からの虐待20%、住まいの喪失18%、病気の悪化15%、長期入院により生活能力低下12%、配偶者・子どもの稼働能力不能10%、措置・施設変更7%、子供からの同居拒否6%、身寄りなし5%、子ども以外の親族からの関り困難、経済的破綻、その他はそれぞれ2%、失業、不明が1%であった。

「家族からの虐待」は、「家族の機能不全」が大きな影響を与えられていると推測する。虐待には高齢者だけでなく、家族にも課題があることが推察される。次いで、「住まいの喪失」である。「住まいの喪失」は、金銭的な問題、疾患の影響等複数の要因が考えられる。つまり、施設入所に至る理由は、個人的な要因だけでなく、周囲の要因も影響していると分析から捉えた。

## 5. 考察

入所理由を分類したが、挙げられた入所理由のうち、「長期入院により生活能力低下」、「経済的破綻」、「病気の悪化」、「住まいの喪失」、「失業」、「身寄りなし」は主に個人的要因と捉えることができる。それに対し、「家族の死亡」、「配偶者・子どもの稼働能力不能」、「家族からの虐待」、「子供からの同居拒否」、「子ども以外の親族からの関り困難」は、家族、親族の状況変化が大きな影響を受けていると捉えた。ケースファイルの分析では、高齢者の社会的孤立が斉藤(2018)の整理した社会的孤立の個人的要因の発生がランダムに生じているわけではないこと、他者との繋がりが切れる要因がいくつも重なると、社会的孤立に陥りやすくなり、それにより何かしらの支援が入り、場合によっては施設入所に繋がるということを確認した。施設への入所理由は、高齢者の社会的孤立に繋がっていた要因とも捉えることができるのではないかと考える。

家族のあり方が多様になってきたのにも関わらず、政策・社会の価値観が“家族ありき”となっていたことがそこから外れてしまった人びとは「社会的孤立」に陥ってしまっていることがB養護老人ホームの入所理由から捉えることができたのではないかと考える。

### 引用文献

厚生省大臣官房統計調査部編(1955-1959)『社会福祉統計年報』厚生統計協会

落合恵美子(2017)「つまずきの石としての1980年代—『反圧縮近代』日本の困難—」『失われた20年と日本研究のこれから・失われた20年と日本社会の変容』pp.171-182 国際日本文化研究センター

落合恵美子(2019)『21世紀家族へ【第4版】家族の戦後体制の見かた・超えかた』有斐閣

斉藤雅茂(2018)『高齢者の社会的孤立と地域福祉 計量的アプローチによる測定・評価・予防策』明石書店

上野千鶴子(2011)『ケアの社会学 当事者主催の福祉社会へ』太田出版